

伏虎中学校区小中一貫校設置に係る住民説明会 会議録（概要）

1. 日時 平成25年6月25日（火）午後7時～午後8時15分

2. 場所 和歌山市役所 14階 大会議室

3. 説明会次第

（1）開会

（2）出席者紹介

（3）説明会

ア 現在の進捗状況と今後の学校建設工程について

イ 基本構想について

ウ 城北公園・城北地下駐車場について

エ 統合後の跡地・跡校舎の利活用について

オ 質疑応答

（4）閉会

4. 説明会内容

ア 現在の進捗状況と今後の学校建設工程について

伏虎中学校区小中一貫校の設置は、昨年、平成24年4月に教育委員会で伏虎中学校区学校適正規模化の方針を定め、平成29年4月に城北小学校と城北公園用地を活用した一体型の小中一貫校を開設すると決定。平成24年8月には、和歌山市の政策決定機関である政策調整会議にて小中一貫校の建設について承認。

現在基本構想を具現化するため、小中一貫校の教育内容と校舎の配置など検討。

また城北小学校グラウンド発掘調査、城北公園の都市公園計画変更手続きを進めている。

今後の学校建設工事の工程について、今年度25年度中に基本設計と実施設計を行う。本体工事は、平成27年・28年の2年間を考えている。

イ 基本構想について

伏虎中学校区小中一貫校基本構想を説明。

ウ 城北公園・城北地下駐車場について

城北公園は、城北小学校グラウンドの発掘調査面積の拡大に伴う代替グラウンド及び、新しく出来る小中一貫校のグラウンドとして使用。今年の9月以降、公園として使用できなくなる。城北地下駐車場は、営業を継続。ただし、利用者の駐車場への出入り口は一部閉鎖。

エ 統合後の跡地・跡校舎の利活用について

現在、市として、市内中心部の再整備計画の中で、統合後の施設の利活用を含め検討。

オ 質疑応答（ご質問、ご意見及び教育委員会の考え方等については、趣旨を損なわないように要約しています。）

Q 1. 一貫校の学校名はどうなりますか。

- ・これから検討します。

Q 2. 小学校も中学校も私服ですか。それとも制服ですか。

- ・これから検討します。

Q 3. 校歌はどうなりますか。

- ・新たのものも含めて検討します。

Q 4. 在校生は9年制へどのように移行していくのですか。

- ・中1は7年生、中2は8年生、中3は9年生への移行となります。

Q 5. 在校生のカリキュラムはそのまま移行するのですか。

- ・統合する3小学校及び中学校と連携しながら、開校時にスムーズなスタートが切れるようにします。

Q 6. 学校区が広がりますが、低学年の児童の登校方法をどういうふうにするのですか。また、最大の距離はどれくらいになるのですか。

- ・最大で2 km程度の距離があります。登下校の方法は検討します。

Q 7. 平成23年3月に東北の津波がありました。防災対策で、体育館を高層にすると説明がありましたが、高層になった時にどれくらいの高さになりますか。

- ・新校舎は5階建てを検討し、海拔約22 mです。また、新体育館を3階に建てる計画ですが、3階のフロアでは海拔11 m～12 m程度になります。

Q 8. 東日本大震災では、体育館の屋根や天井が落ちました。そういうことの無いようをお願いしたい。新体育館・学校は建築基準法に従うようにお願いします。

- ・既存学校については、構造体のみで耐震化をすすめ、耐震化は終わりました。東日本の大震災があり、体育館の天井が落ちたりして、被害にあわれた方がいますので、対処してまいります。

Q 9. 統合後の跡地の利活用の方向性はいつ分かりますか。

- ・現在利活用できる施設の洗い出しを行い、市としてどういう形で利用できるかを全庁的に検討していますので、計画自体がいつできるという段階までには至っておりません。

Q 10. 県立の中学校や私立の中学校の受験はどう考えているのか。

- ・小学校、中学校の学習指導要領があり、それに基づき授業を行います。小学校の卒業の段階で、県立中学校や私立中学校の受験も可能と考えています。

- Q 1 1. 他地区でも小中一貫校を検討しているのか。
- ・和歌山市立学校適正規模化の方針があり、今後もその方針に従い他の地区でも進めて行くこととなります。
- Q 1 2. 小学校の卒業式はあるのですか。
- ・小学校の卒業式は実施します。
- Q 1 3. 中学校では文化祭等がありますが行事はどうされますか。また小学校、中学校全員で運動会をしますか。
- ・これから検討します。
- Q 1 4. 他府県で小中一貫校を実施している事例はありますか。
- ・京都市、高松市、大分市、呉市などで、4・3・2年制を実施しています。
- Q 1 5. 4・3・2年制のデメリットは何ですか。
- ・デメリットとしては、小中の教職員は9年間を通した新しい取り組みとなりますので、会議等先生方の負担が大きくなると考えています。
- Q 1 6. これからも説明会は開催されますか。
- ・具体的に設計ができた時点で、説明会またはお示しさせていただく機会は設ける予定にしています。
- Q 1 7. 小中一貫教育を進めるにあたり、国の指針というのは具体的にありますか。また、方向性に沿った形なのですか。
- ・平成17年10月の中央教育審議会で、義務教育を中心とする学校種間の連携接続を改善するための仕組みについて検討する必要があるという趣旨の答申が出されました。また、平成19年6月に、学校教育法が改正され、義務教育9年間における目標が定められ、義務教育9年間の接続を重視した方針をとっています。その流れが全国に広がり、小中一貫校を取り組んでいるところは品川、呉、京都など他都市で小中一貫が取り組まれています。
- Q 1 8. 通学が遠くなる小学校区について、統合前から検討されないのですか。
- ・和歌山市内でも複合区というのがあります。今回通学の区域が広がりますので、複合区についても検討課題として捉えています。